

大西先生の訃報をお聞きし、未だに信じられない思いであります。私は 15 年ほど前に原子核分野から離れ、それ以来大西先生にはほとんどお会いしておりませんでしたので、訃報をお聞きしても実感はなく、今でもどこかでお元気にされているのではと錯覚してしまいます。

私は 1997 年の大学 4 年時に北海道大学理学部原子核研究室に配属され、その後大学院、ポスドクの間、同研究室に机を頂き、2007 年に医学研究科に異動するまでの 10 年間、大西先生には常にお世話になっておりました。私が所属していた時代の北大原子核研究室は、加藤先生と大西先生の二人体制でした。私の指導教官は加藤先生でしたので、大西先生とは直接研究指導を受ける関係ではありませんでしたが、研究室のゼミ等での私の発表の際には、いつもコメントを頂き、研究に強く関わって頂きました。

私が研究室に配属された当時、大西先生の居室には学生の机も置かれており、大変光栄なことに配属から数年間、私は大西先生と同部屋となりました（当初、同室には平田さんがおられたことを記憶しております）。大西先生は、Unix 系のコンピュータやネットワークに詳しく、同室時代は特に多大なる影響を受けました。

実際に影響を受けたものをご紹介しますと、まずはテキストエディタの vi です。習得が少し難しいのですが、慣れると大変使いやすく、今でも私のメインのエディタのひとつです（この原稿の下書きも vi で書きました）。論文等の文書作成に使われる TeX についても大変影響を受けました。残念ながら現在私が働いている職場では TeX が使われることはありませんが、それでも私が担当する会議の議事録では TeX を使用し、月に一回は TeX に触れる時間があります。このシステムも習得が難しいのですが、慣れると便利でソースファイルがテキストベースのため管理も楽で、かつ非常に綺麗な原稿を作成できるため、今後も使い続けられればと考えています。他にはグラフ作成ソフトウェアの gnuplot、描画ツールの Tgif を教えて頂きました（大西先生は研究でよく使われていた核物質の相図や原子核研究室の年次報告等で使用されていた研究室の研究分野の概略図を Tgif で作成されていました）。大西先生は、これらの技術を組み合わせて作業されていましたが、Makefile も良く使われていて、make と打つだけで、TeX のソースファイルから pdf ファイルを作成するような環境や、ソースコードの tar.gz ファイルを生成してバックアップするような環境を作られていました。このようなツールのひとつとして、学位論文取得時に必要となる書類を作成するための TeX ベースのシステムを作られていて、我々の時代の学位取得者はお世話になっておりました。

大西先生は、研究室のネットワーク（おそらく物理学科のネットワークにも関わられていたと思います）の管理をされておりましたので、ネットワークを一緒に管理するという貴重な経験を通じて勉強させて頂きました。サーバ管理も同様に勉強させて頂くことができ、そのおかげもあり、現在の所属に異動後、コンピュータのことで苦労することはなかったと思います。ただ、残念ながら大西先生が持っていた技術の中で、awk だけはマスターできませんでした。

私は現在放射線治療の分野にありますが、放射線治療のシミュレーションに用いられる phits というモンテカルロシミュレーションのコードにおいて、高エネルギー領域の計算では、大西先生が強く関与された JAM が使われています。私がこの分野に異動した当時、phits の説明の中で JAM の話がでるたびに誇らしく、勇気ももらったことを覚えています。

研究面での大西先生の思い出として強く印象に残っているのが、私が若いときに一人で学会に参加した際に、発表練習を見て頂いたことです。その当時、学会発表や研究に自信はなく、大西先生から強く

励まして頂いたことは今でも記憶に残っています。おそらく、その時だと記憶しているのですが、大西先生は自分の研究はすぐには役に立たないかもしれないが、50年後には役立つと信じて研究しているといった趣旨のことを言われておりました。大西先生の業績を見るにつけ、北大では夜遅くまで研究されていたことは実際に見て知っておりましたが、京都大学に移られてからも同様またはそれ以上の熱意をもって研究を続けられ、大変な業績を残されていることを知り、大西先生は本当に50年後に残る仕事をされたのだと感銘を受けております。

また、もう一つ大西先生の考えで覚えていることとして、他の人の研究にコメントすることで、その研究が進んだり、世の中が変わることを重要視していたり、そういう側面を楽しんでいると言われておりました。研究室のセミナーや研究会、学会では誰の発表に対しても常に質問やコメントをされていたのは、こういう背景もあったのかと改めて答え合わせができた気分です。

最後に心残りなことは、大西先生とは北大原子核研究室で長く過ごしたわりには、音楽のお話をほとんどしなかったことです。大西先生はトランペットを奥様に習われていたと記憶しております。私はトロンボーンを趣味で吹いておりますので、一度ぐらいいっしょに吹く機会があっても良かったですね。

今回、追悼文を書くにあたり大西先生とのことを思い返すと、これまで私が思っていた以上に様々なことを大西先生から教えて頂いていたことに気づかされました。大西先生、本当にありがとうございました。原子核分野とは異なる分野にありますが、大西先生が教えてくれたことを後進に少しでも伝えていければと考えております。

大西先生のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

鈴木 隆介（北海道大学病院 医学物理部）



Merry Christmas and Happy New Year!

Nuclear Reaction Data Centre (JCPRG)
Faculty of Science, Hokkaido University

楽しいクリスマスとよい新年を！
北海道大学大学院理学研究院附属
原子核反応データ研究開発センター



北海道大学大学院理学研究院附属
原子核反応データ研究開発センター
Hokkaido University Nuclear Reaction Data Centre

2007 年末に北海道大学大学院理学研究院 原子核反応データ研究開発センター (JCPRG) から Nuclear Reaction Data Center Network (NRDC) の各センターへ配信されたクリスマスの挨拶メール。写真は大西先生の居室で撮影されたもので、2007 年 12 月 21 日に開催された原子核研究室、JCPRG の忘年会および歓送迎会（浅野氏の VBL 赴任の歓迎会、大塚氏の IAEA および私(鈴木)の北大医学研究科への異動に伴う送別会）時に撮影されたものと思います。一番奥が須田氏、その前列が、向って左から吉田（ひ）氏、芦澤氏、鈴木(著者)、その前列に、吉田（亨）氏、浅野氏、前列が、能登先生、大塚氏、千葉先生、写真の右下、向って左より加藤先生、大西先生。